

## 2 事前調査の方法

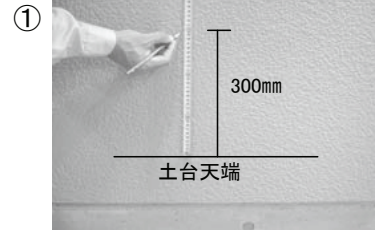
### 2-2 既存建築物の診断方法

#### ■ 保持力チェッカーによる試験方法

- 保持力チェッカーが切れれば、保持力が1000N以上あると推定でき、合格です。
- 保持力チェッカーの使用手順は以下の通りです。

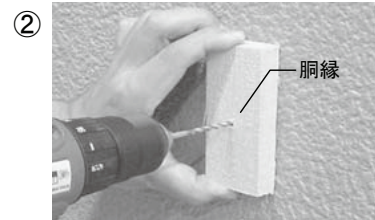
##### ① 試験部分の位置出し

試験実施部分の土台・柱の場所を確認し、印をつけます。  
※土台部は中央部、柱は土台天端より300mmです。



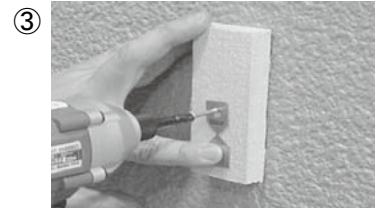
##### ② 既存壁への先孔あけ

施工に使用予定の胴縁(長さは100mm程度)と、既存外壁にビス径よりも一まわり大きな先孔をあけます。  
※先孔は土台・柱にはあけないように、深さに注意してください。  
※モルタル壁にはコンクリート用キリを使用してください。



##### ③ 保持力チェッカーの留め付け

胴縁留付ビス(土台・柱に25mm以上入るもの)は、保持力チェッカーと先孔をあけた胴縁に留め付けます。



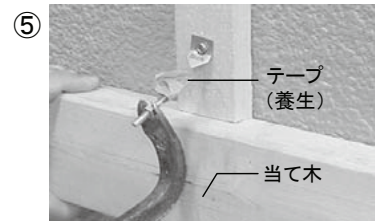
##### ④ 付属フックの引っ掛け

保持力チェッカーを起こし、チェッカーの孔に付属のフックを引っかけます。



##### ⑤ 引き抜き

引っかけたフックを、バール(釘抜き)でビスを引き抜くように引っ張ります。



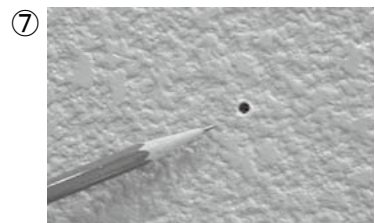
##### ⑥ 判定

ビスが少しでも抜けずに、保持力チェッカーが切れれば1000N/本以上の保持力があると推定でき、合格です。  
※保持力チェッカーが切れずに、ビスが抜ければ1000N/本未満で不合格です。



##### ⑦ 補修

試験後のビス孔は、弾性パテ材・シーリングなどで補修します。



**注意** 保持力チェッカーの破片などが飛ばないように、テープなどで治具とフックを養生してください。